

迫るXマス「美濃娘」旅立つ

イチゴ出荷ピーク 岐阜市



クリスマスケーキに使うイチゴの需要が高まる中、全国農業協同組合連合会岐阜本部（JA全農岐阜）が運営する「いちご新規就農者研修所」（岐阜市曾我屋）が繁忙期を迎え、県の推奨品種イチゴ「美濃娘」の出荷作業に追われている。

美濃娘は甘みと酸味のバランスの良さが特長で、果肉が硬く日持ちが良いためケーキや大福などの菓子にも用いられる。JA全農岐阜によると、今年は開花時期にバラつきがあったものの、順調に育ったという。

研修所で学ぶ研修生たちは約40坪のハウスに実った美濃娘を丁寧に摘み取り、

イチゴを摘み取る研修生の北崎智乃さん（岐阜市曾我屋、JA全農岐阜いちご新規就農者研修所）

手際よくパック詰めしていた。出荷作業は翌年5月下旬まで続くという。

研修所はイチゴの生産振興を目的に2008年に開設。現在59人が研修を終え就農している。25年度の研修生は来年1月20日まで追加募集しており、埼玉県から来た24年度研修生の北崎智乃さん（29）は「就農まで手厚くサポートしてくれるのが魅力」と話していた。